

岩手教区報

第319号
 立教182年7月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3番40号
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597



主事・少年会団長 高橋 邦和

夏の盛り「雪の日」を想う

昨年7月25日、日本の南で発生した台風12号は、小笠原諸島の東海上を北上し、進路を西寄りに変えながら、東海道をかすめつつ三重県に向かうという、普通では考えられないコースを辿りました。

少年会岩手教区団こどもおぢばがえり団体バスは、28日昼頃釜石を始発。宮古を経由して、教務支庁に着いたのは午後2時頃でした。台風の進路が気になりましたが、帰参者一同おぢばがえりの無事を祈念して出発。北上する台風に向かってバスは南下、東京を過ぎたあたりから並走し、競争をするように一路おぢばを目指しました。強風に煽られながら、途中台風の目にスッポリと入ることもあり、なおも西へ進路をとる台風と三重県付近でお別れをして、29日朝無事おぢばに帰ることが出来たのです。

台風一過のおぢばはしつとりと静かで、帰参者一同早速神殿に向かい、無事のお連れ通りをお礼申し上げました。その時ふと想い出されたのは、夏の盛りにはありました。教祖伝逸話篇「雪の日」のお話でした。

朝から大雪の日、増井りん先生は河内を発ち、大和路までくると雪はいよいよ降り積もり、途中から

で、掃除一つ道を改め。(中略) どういう処、心の掃除や。」とあるが、企業もまた、天理に適った心の掃除を併せて実践する時、天の与えを頂ける喜びの世界が展開される事である。

【陽気ぐらし講座】開催報告(6月分)

奥州29日(土)金ヶ崎中央生涯教育センター 28名
 岩手原分教会 35名

【ようぼく成人講座】開催報告(6月分)

花巻16日(日)浜洋分 20名(講師 高橋邦之)

行事予定

【7月分】

1日 少年会例会(12時)

2日 主事会(9時)

役員会議(10時)

「天理時報」手配りひのきしん 実務研修会(13時)

13日 女子青年例会(10時)

婦人会例会(10時30分)

青年会例会(17時)

14日 婦人会「会員決起の集い」(13時 於磐井分)

21日 道の教職員の集い第2回役員会

少年ひのきしん隊教区練成会

23日 学生担当委員会例会(19時)

28日 こどもおぢばがえり教区団体(8/1)



「凡事に生きる」

昭和36年、自動車用品販売業「イエローハット」を創業した鍵山秀三郎氏(86歳)は、当時、自転車1台で売り歩く商売から始めた会社をやがて全国に進展させ、35年後の平成8年には368店舗、資本金148億円の企業に成長させた。その成功の礎となった氏の哲学は凡事に徹する、つまり掃除の実践だった。社長を退いた今も、朝5時起床、その日により道路掃除やトイレ掃除、車の掃除と様々。因みに、これまでトイレ掃除をしてきた学校の数は700校を超すと云われる。

氏が掃除を始めた理由はこうである。創業の頃、無名で力もなく、数名の社員が営業活動に出ると無視されたり、冷淡にあしらわれ心を荒ませて帰って来る。ポロポロになった彼らの心をなだめる為に、普通なら営業成績によって給料を上

げるとかするところだが、氏は社員が出勤するまでに会社をきれいに迎えてやるうと、社長自らが始めた事で、誰に命じたものでもなかった。だから、初めはさんざん馬鹿にされ、笑われ反対される中、10年も過ぎた頃から1人、2人と手伝う人が増え、掃除の実践は、やがて会社の枠を越えて全国へ広がった。そして、今や50年に及ぶ掃除運動の氏を「日本を美しくする会」の相談役として活動が続けられている。

人は自分の得になる事は懸命にやるが、得にならない事はしたがない。氏は「益が無くても意味はある」と、無益な事にも意味を見出して行動する生き方を貫いたのは、自分の得にならぬ事をやらなければ人は成長できない、という人生観からだ。氏はまた、「根深ければ葉繁し」という考えをもち、根を育てるといふ地味な事に力を入れてきた。結果さえ良ければ手段を問わないという結果主義の強い現代、氏はプロセス(経路)が正しければ、他社が3年で行ける事が5年、6年かかっても良い結果を生むと信じ、プロセス主義を実践してきた。形より質を大事にし、凡事、平凡な事に価値を置いた。

ご神言に、「掃除一條、掃除一條すつきり掃除してしまうで。(中略) 隅から隅ま

風さえ加わる中を額田部の高橋まできました。この橋には欄干がなく、幅90センチ程の雪の積もった橋を、はだしになり這って進むと、途中強い風が吹きつけ川に落ちそうなどころを這いつくばって「なむてんりわうのみこと」とお願いしつつ、やっとの思いで渡りきり、お屋敷へたどり着きました。そんなりん先生の冷え切った手を、教祖は両手でお握り下されながら、「ようこそ帰って来たなあ。親神が手を引いて連れて帰ったのやで。あちらにてもこちらにても滑って、難儀やったなあ。その中に喜んでいたなあ。さあ、親神が十分々々受け取るで。どんな事も皆受け取る。守護するで。楽しめ、楽しめ、楽しめ。」と仰せられたのです。

おぢばは「親なる神」によって人間が創造された人類のふるさとです。ここで頂戴できるご守護の数々は、枚挙にいとまがありません。その喜びを子供たちにも味わってもらいたい、教祖にお引き合わせしたい、こどもおぢばがえりにはそんな熱意が込められているのです。

子供たちをおぢばへお連れしましょう。御存命の教祖がお待ち望み下されております。



学生担当委員会

「学生層育成者講習会」

開催報告



柏原信弘先生

去る6月2日、教区学生担当委員会では、本部学生担当委員会委員の柏原信弘先生を講師に迎え、学生層育成者講習会を開催、27名が参加した。

柏原先生は、「育成はおぢばの理を頂いてこそその育成である」と、おぢばの理の尊さをお話し下さった。特に育成する立場の者が育つ努力を通して、親神様にお働き頂く理づくり、種蒔きの意味合いを、様々な体験談を通して聴かせて頂いた。参加者からは、学生層に限らず若年層の育成に大切な角目を確認できて、大変参考になった、との感想があった。皆様には、今後とも変わらぬお力添えをお願い致します。



婦人会

「女子青年グループリーダー」

親睦会」実施報告

女子青年は6月2日に教務支庁において、グループリーダー親睦会を実施、女子青年3名、担当者2名が参加した。参拝後、婦人会長様のメッセージを音読し、親の思いを胸におさめた。その後、本部女子青年委員長講習会の報告があった。午後は、「決起の集い」の準備と、11月3日開催の「第29回女子青年大会」へのお誘いカードを作成。最後に加藤早苗主任が「女子青年のかどめ」の実行と、大会に向けてのパワー結集を促された。

「会員決起の集い」開催報告(6月分)

9日(日)宮古港分11名(講師 井筒年子先生) 感話 久保京子(浜洋) 工藤徳恵(宮古港) 30日(日)浄法寺分133名(講師 梅谷潤子先生) 感話 水上ユリ(中野濱) 羽澤弥栄子(荒澤)

「会員決起の集い」開催予定(7月分) 14日(日)13時 磐井分(講師 平澤栄美先生)



井筒年子先生と感話者

宮古港分教会会場



梅谷潤子先生と感話者

浄法寺分教会会場



少年会

「子どもおぢばがえり団体」募集

こどもおぢばがえりに、岩手教区では団体バスを準備しています。子供さん一人からでも参加できます。詳細は支部育成委員長へお尋ね下さい。

期 日 7月28日～8月1日 (4泊5日)



「少年ひのきしん隊本部練成会」

わかぎである中学生が「人のためつくすよろこびひろげよう」を合言葉に、合宿生活を通して互いにたすけあい、様々な会場でのきしんに励みます。

参加費 2万5千円
隊 期 7月31日～8月5日
※少年ひのきしん隊員は、7月30日ユニバーサルスタジオジャパンに行きます。

日程	宿 泊	団 費
7月28日	13時釜石発↓宮古↓	園 児 1万2千円
7月29日	朝 天理着 行事参加	小中学生 2万3千円
7月30日	行事参加	大 人 3万8千円
7月31日	長島スパ→ランド	
8月1日	6時一関↓北上↓	
盛岡↓宮古↓釜石着		